

食コミュニケーション論特論（選択・講義1単位）[教職（家庭）必修] 衛藤久美

### 【授業の到達目標および概要】

本授業は、従来の栄養学における視点とコミュニケーションにおける視点を融合させ、人々の食生活を捉えることができることを到達目標とする。本授業は、DPの「栄養学の幅広い視野に立って精深な学識を有する」ことの達成に関連する。

食を通じたコミュニケーションのあり方について、共食・孤食及び食歴（ひとりひとりの食生活の歴史）を例に理解を深める。共食・孤食については、これまでの国内外の研究動向に関する講義を行った上で、授業内容に関連するテーマについてディスカッションを行う。食歴については、関連する内容について講義を行った後に食歴に関するワークショップを行い、過去・現在・将来の食生活のつながりへの理解を深める。最終回には、あらかじめ指定した課題について発表し、ディスカッションを行う。

### 【授業計画】＜英語併用可＞

- ① 食生活とコミュニケーション
- ② 共食・孤食に関する研究動向① 全国的動向と関連要因
- ③ 共食・孤食に関する研究動向② 質的視点及び共食の推進
- ④ 食歴を振り返る
- ⑤ 食歴と現在・将来の食生活
- ⑥ 食を通じたコミュニケーション
- ⑦ 発表・ディスカッション及びまとめ

### 【授業外学習】

授業の配布資料、授業内で指定した資料や論文、参考資料として提示した資料等を精読し予習・復習する。指定の課題がある場合は、課題に取り組む。授業内ディスカッションに備えて、自身の考えをまとめておく。授業時間の倍程度の自己学修を行うことが望ましい。

### 【成績評価の方法・基準】

授業への参加態度（25%）、発表内容[日本語又は英語]（25%）、レポート[日本語又は英語]（50%）により、総合的に評価する。

### 【教科書】

特になし

### 【参考書】

足立 己幸／編 足立 己幸・衛藤 久美／著：共食と孤食—50年の食生態学研究から未来へ、女子栄養大学出版部（2023）

### 【教材】

必要に応じて授業時に配布する